広報あいかわ
発行所
秋田県 合川町役場
編集責任者（広報係）佐藤陽三
総務課　電話4番
〔発行部数 2,700〕

# いよいよ調査始まる

## 大野台国営開拓パイロット事業

圃場整備事業とともに町の営農構造を画期的に改め、古い農村の組織を一挙に打開しうる可能性をひそめている大野台国営総合開拓パイロット事業は合川、鷹巣、森吉の三町で結成している促進協議会の事務局を本町の役場の二階に設置し、土地所有の状況や水利などの調査を開始して四十九億八〇〇万円の巨費を投じて行なわれる開拓事業のスタートを切りました。

国営開拓パイロット事業として採択された大野台地区国営総合開拓パイロット事業は、基本計画がまとまりました。

その概要は、次のとおりです。

二、七〇五ヘクタールを開田し、米代川よりポンプ揚水をして水稲栽培による経営規模を広げ自立経営農家の育成を図る。農業近代化の将来を見込み大型農機械に対応できるように三〇アール区画に開田することになっています。

開田される面積を関係町別にみると合川一、二七〇ヘクタール、鷹巣七九〇ヘクタール、森吉六四五ヘクタール、そのうち二七〇ヘクタールは道、水路用地となります。

これの工事費は、総額四十九億八〇〇万円で、幹線導水路に三億六六〇万円、揚水施設に一〇億九〇六五万円、用水路に七億二七〇二万円、排水路に三億二四〇万円、道路に一億五八三四万円、開田に十三億八七三一万円、その他雑工事に一九六八万円、間接工事、九億一六〇〇万円が見込まれています。

この工事は、昭和四十八年度に完成の予定になっていて、これが完成されますと受益農家二、四〇〇戸は平均二ヘクタール以上の水田を経営することになります。

本年度は八二〇万円の予算で、計画地域の土地所有状況や水源、用排水の調査が行なわれます。

【役場二階に設置された促進議会事務局】

# 収入役選任の同意など四議案を可決

## <町議会臨時会>

町議会臨時会は、五月十九日、役場会議室で開かれ収入役選任の同意などの四議案を可決しました。

可決された議案とその内容は、次のとおりです。

◇専決処分事項の報告について

昭和四十一年度一般会計予算に三月末に決ってきた災害復旧費百三十万円を議会を招集するいとまがなく補正したものであります。

◇町職員の定数条例の改正について

母子健康センターの職員一人を増員し三人にしたもので、これで町職員の定数は百九人となります。

◇収入役の選任について

五月十二日をもって任期満了の関収入役の後任に木村士郎氏を選任したいので議会の同意を求めたものです。

◇病院組合議会議員の選挙について

森吉町外三ケ町村病院組合（公立米内沢総合病院）議会議員に、後藤要助（下杉）畠山宇三郎（木戸石）、三浦甚助（三木田）成田長夫（李岱）金田悦財門（西根田）、佐藤伊右衛門（川井）の六氏を選出したものです。

## 収入役に木村士郎氏

収入役に選任された木村士郎氏（写真）

は、昭和二十三年より役場に勤務し、三十一年五月総務課長、三十四年四月町民課長兼病院事務長、三十五年四月総務課長になりました。

なお、任期満了の関源吉氏は、大正十五年より役場に勤務し、その間収入役連続四期（十六年）つとめました。

## 六月の行事予定

15日　皇居奉仕打合会
16日　課長会議、青協世話人会議
19日　農村青年指導者ゼミ（秋田栄養改善学級）
22日　町議会
25日　部落連絡協議会役員会
27日　イモチ検診（三〇日まで）

# 社会福祉の町づくりは青少年を中心に

## 青少協、県の指定を受ける

青少年を健全に育てることは、町の青少協を中心に各団体機関をあげて取りくんでいるところですが、このたび、郡内ではただ一つ県の青少年健全育成総合推進地区という、いかめしい名前の指定を受けました。

この指定は、青少年を総合的に育成するため、県の関係行政機関の働きを総合化し重点的に指導を加え、市町村はそれに応えて計画をたて、予算的にも人員の配置も積極的な施策を進めようというものです。

町では、この機会をとらいて、さらに健全育成の仕事を充実させるため、去る六月九日、幹事会、委員会を開いて活動の方針を決定しました。

計画案によると、まず情勢分析では、非行や事故はいつどこでおこるか分らない危険をはらんでいること青少年の自主的な組織が少ないこと。体力や忍耐力が少ないこと。ボランテア（奉仕活動家や世話人）が少ないこと　遊び場の活用と内容の充実を図らねばならないこと。青少年対策はどちらかというと、子供たちの行動を規制することに重点がおかれていることなどがあげられています。

そのため、今年度の努力目標は

1 健康運動を進めよう
2 事故から青少年を守ろう
3 地域ごとに子供の組織をつくろう
4 ボランテアの養成につとめよう

という四つの重点目標をたて、仲間づくり、家庭づくり、環境づくりを住民総参加の姿で進めようとしています。経常的な仕事としては、小さな親切、善行運動や、愛の一声かけ運動、環境点検パトロールなどをとりしながら、子供は社会の子供、みんなの子供であるという意識づけをしたいとしています。

なお各部落から別掲のような世話人を委嘱し、学校や部落などと連けいを深めながら実質的な活動を進めることになりました。

## 青少協世話人

道城　森岡　誠
〃　永坂　敦子
上杉　疋田俊一郎
〃　関　多悦
下杉　桜井　厳
〃　後藤　良子
駅前　角南　弘
〃　佐藤　弘美
川井　佐藤　きみ
〃　佐藤　征一
桃栄　疋田　俊夫
梅栄　近藤　サダ
弥栄　金沢　拓二
李岱　佐藤　キワ
〃　木村　一蔵
〃　平川　堅一
〃　田中　利明
羽根山　松岡　良輔
〃　菊地　弘勝
新田目　中島　清一
福田　鈴木　運助
羽立　藤岡　茂雄
東根田　桜田　幸男
西根田　金田　茂正
摩当　松橋　良三
三里　福岡　善悦
大内沢　成田　誠治
三木田　三浦　睦子
〃　三浦　真一
鎌沢　御所野五郎
〃　鈴木　五郎
雪田　山岡　一男
杉山田　伊藤　欣一
木戸石　畠山　賢三
〃　藤島　伸一
増沢　小笠原三四治
〃　杉淵　正国
八幡岱　高橋　久男
美栄　豊村　市郎
芹沢　土濃塚イマ

# 米作650キロとり競作会の参加募集中

町では、米作技術を高め多収穫をねらいとして、米の六五〇キロ（四石三斗三升）とり競作会を催しています。要領は、次のとおりですから多数参加して下さい。

1 三人以上組んで、一人一〇アール三〇アールを一つの競作田とします
2 一人分一〇アールは同じ品種（県の奨励品種）を植えていて、一ヘクタール以上の道路水路が、はさまれていない。
3 参加申込みは、六月三十日まで経済課へ

◆　◆

# 工場誘致第二号　南支所跡に古川被服

町では、さきに誘致した秋田ライフルマン社に続き第二号として事務服、作業服を製造する東洋繊維工業株式会社を南支所跡に誘致しようと交渉をすすめています。

この会社は、本社が東京都中野区、社長古川清二郎工場は埼玉県行田市にありこれの分工場を建設しようとするもので、南支所の建物三七三平方メートルを一三〇万円で補修し、従業員一五人をもって九月操業開始をめざしています。

従業員は既婚の女性を現地で教育しながら明年度から三〇人ぐらい雇いたいとしています。

## 畠山町長が会長に再選

### 北秋田郡町村会

町長は、五月二十三日鷹巣町で開かれた北秋田郡町村会臨時会において、会長に再選されました。

また、県町村会副会長は任期満了によって退任しました。

なお、北秋田郡町村会副会長は近藤森吉町長さん。

## 分館長など任命

### 公民館

公民館では、このほど職員会議を開き、昭和四十二年度の運営計画、社会教育計画などを決め、分館長と体育指導員に次の方々を任命しました。

〔東分館長〕米倉甚吉郎
〔西分館長〕成田　迪
〔南分館長〕福田　宮松
〔北分館長〕畠山　俊夫
〔体育指導員〕
関源一（上杉）藤岡茂雄（羽立）三浦真一（三木田）畠山虎雄（木戸石）森岡誠（道城）藤島雄悦（中学校）

## 健康なときに愛の献血を

愛の献血車「あかつき号」が皆さんの愛の血液をいただくために七月二十七日来町します。

生死の境に立つ気の毒な人々、職を同じくする同僚親せきや身近かな方々、そしてあなたご自身のためにあなたの健康な血液を役立たせるよう献血をお寄せください。

普通、体重の約八キロ（体重六〇キロであれば約四千八百ミリリットル）が血液であるといわれています。

献血量は一回二百ミリリットルですが、この量は健康な方にとっては医学的になんらの障害もありませんし、特に疲れるということもありません。

献血できる方は、満十六才以上満六十五才未満で体重が男子で四十五キロ、女子で四十キロ以上ある方で採血する前に医師が検診いたしますから無理な採血は絶対ありません。

献血なさった方がもし血液を必要とするときは優先的に「献血の血液」を使用できるようになっており今年からは三親等以内の親族にも適用されることになっています。

## 健康相談はお気軽に

### 移動健康センター開設

町民健康センターでは、町立病院と母子健康センター、それに役場で行なっている保健衛生の仕事の三つをあわせ、みなさんの健康管理のため頑張っていますが、近く移動健康センターを開設して気軽にみなさんの血圧測定や栄養指導などの健康相談に応ずることになりました。

六月一日付で新しく田口助産婦（保健婦兼任、写真）が母子健康センターに着任しました。

これで町では助産婦、保健婦ともで三人となりスタッフも充実しました。

日程が決り次第、医師、助産婦、保健婦、看護婦、栄養士、町民課係員が、みなさんの部落にお伺いしますからどうぞ気軽に相談して下さい。

## 町辞令

財政課長　土濃塚一郎

総務課長事務取扱を兼ねて命ずる。

主事　和田　勇治

町民課勤務を命ずる。

合川町教育委員会社会教育主事を兼ねて命ずる。

（昭和四十二年五月二十日）

田口　洋子

合川町技術吏員を命ずる

助産婦を命ずる。保健婦を兼ねて命ずる。

母子健康センター勤務を命ずる。

（昭和四十二年六月一日）

## 全町民のねがいをこめて
# 毎月1日「防火の日」

**部落や隣り近所で、話しあって組織をつくり、毎月1日を**

◎お互いの家庭で火の元をたしかめ合って、火事の心配がない日にしょう
◎火災予防のことをみんなで話しあう日にしょう
◎危いと思ったらすぐ直す日にしょう
◎絶対にわが家から…わが部落から……わが組から火事を出さない自信を持つ日にしょう

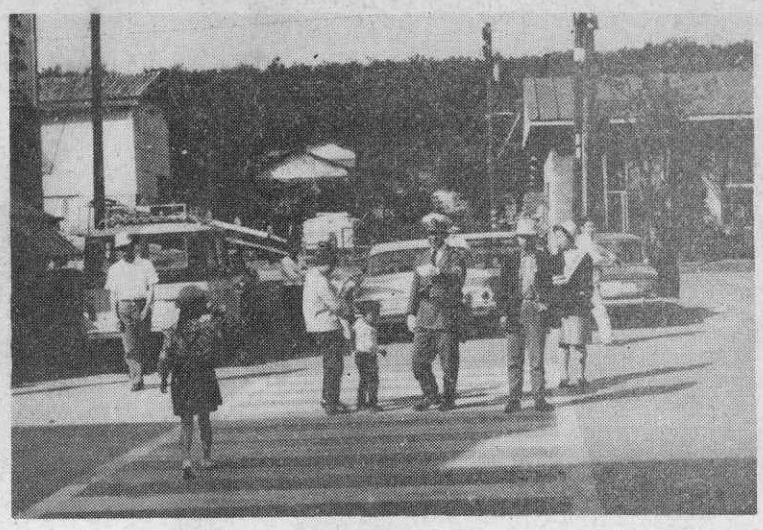
## 交通安全みんなの協力を

# 黄色の帽子に黄色のたすき

交通事故防止のために色々な対策がなされていますが、事故件数は年々多くなるばかりです。運転者が、歩行者が、チョットした不注意で悲惨な事故を招くのです。交通安全は、一人一人が事故を防ぎ、事故を起さない意欲をもった、町民総ぐるみで行なわなければならない運動です。

町と合川町交通安全対策協議会では、町民の自主的な交通道徳の高揚を図るため、町内の部落ごとに男女各々一名の交通安全協力員を委嘱することにしています。

協力員には、一見して事故防止の注意が喚起されるように、男性は黄色の帽子女性は黄色のたすきをしてもらって、交通の指導や町で行なう交通安全対策のお世話をやいていただくことになりました。



【黄色の帽子で交通の指導をする役場職員】

## 大野台開発などを学習

### 農業あとつぎの会

農家の働き手は老人や婦人であるといわれますが、やはり中心となるのは若い力であります。

町内の若い農業後継者たちで組織されている合川町農業あとつぎの会（会員四七人）では、さきごろ総会を開き、昭和四十二年年度の活動方針と役員を次のように決めました。

会長成田誠治、副会長佐藤征一、庶務会計奈良[illegible]五郎、委員疋田俊一郎、[illegible]

活動方針

①稲作技術研究を基本としながら、他の部門との関連性をつきつめ、農業経営をとりまく問題を研究する一人一研究の推進。

②農業基盤整備事業や大野台開発の構想と現状を把握し、将来の合川町農業の担い手となるための学習をすすめる。

## 造林補助 至急申し込みを

### 合川町森林組合

合川町森林組合では、今春一〇㌶以上造林した方に補助金交付の申し込みをして下さいと呼びかけています。

補助金交付の対象となるのは、一団地一〇㌶以上に杉、カラマツ三〇〇本以上アカマツ五〇〇本以上造林しているところ。

申し込みには①造林した地番、②造林地の現況（杉雑伐跡、原野、採草地）③造林者住所、氏名、④樹種本数、⑤苗木の入手先が必要とのことですが詳細については組合事務所（電話一七七番）へ問合せ下さい。

## あなたの人権は守られていますか

国民に保障されている基本的人権を守り、それを守るような思想をひろめるための人権擁護委員に次の方々が法務大臣より委嘱されました。

工藤為治さん（上杉）、畠山佐一郎さん（木戸石）、松岡忠さん（羽根山）、土濃塚イマさん（芹沢）

委員の方々は、人権の侵害されるようなことがらでたといえば

○部落のおきてにそむいたからといって、つきあいからはずされる。

○貧乏だから、職業がいやしいからと差別される。

○労働運動をしているからと圧力をかけられたり、クビにされたりする。

○役人が職権を乱用して暴行や不当な圧迫をする。

○寄付などを強制されて応じないと不当な圧力をかけられる。

○名誉や信用、また宗教の自由が侵害されようとしている。

などで困っている人の相談に応じて下さることになっています。

## 役所への苦情は行政相談委員に

行政相談委員にこのほど福田宮松さん（鎌沢）が行政管理庁長官から委嘱されました。

行政相談委員は、国の行政、つまり役所に対する不平不満をもっておられる方の相談にあずかり、これを秋田行政監察局へ連絡していることの処理をすることになっています。

申し出は、口頭でも書面でもよく費用は一切無料です。

## カーブミラーを設置

### 木戸石部落で

悲惨な交通事故が起きないようにと木戸石部落（代表者畠山俊夫）は同部落の中村利一さん宅前にカーブミラーを設置しました。

ここは、通称下の坂といわれ同部落下横町よりの道路と県道が交差しているところで、坂道の見通しの悪い交差点です。運転者は一旦降りて、車の前まで行かなければ左右の確認ができなかったのですが、カーブミラーのおかげで一時停止だけで左右確認ができるようになり通行が便利になりました。運転者の負担が軽くなったと地域の人々に喜ばれています。

【写真は木戸石のカーブミラー】

## 胃の検診車来町

### 料金は全額町負担

成人病の検診車が七月の六日と七日の二日間にわたり来町して胃の検診にあたることになりました。

近年病人がでるとガンにやられているのではないかという言葉を耳にします。そしてそれがあたかも死の宣告のようにも聞きとられているのです。

とくに秋田県における成人病死因のうちガンは脳卒中に次いで多いわけですがしかも若年層で倒れる人が非常に多く成人病高死亡率県を占める要因となっているのです。

このような、働き盛りの人口が早死にすることは、家庭にとっても社会にとっても大きな損失であることはいうまでもありません。

町では町民の健康を守る積極的施策の一つとして成人病検診を全額町費で負担することになったので多数の方々が検診するよう望んでいます。

七月六日と七日の検診は成人病検診車によって胃の検診にあたるもので希望者は部落委員長へいますぐ申込んでください。

## 三木田火災に救援

### 町連合青年会

四月十一日の三木田火災の被災者にやってくださいと合川町連合青年会（会長和田三九郎）では、米七五㌔、現金三、二〇〇円を町の社会福祉協議会へ贈ってくださいました。

## 農薬散布にはこういう注意を

おそろしい農業中毒のふえる季節になりました。暑いのでいけないとは思っても、つい服装がゆるんで事故をおこしやすくなります

農薬散布には、こんなことに気をつけましょう。

①散布に使用する器具が作業中、故障しないようあらかじめ点検しておく。

②農薬は、弁当などの飲食物といっしょに包んだりポケットに入れたりしない

③液剤などの調製は、なれた人が使用書をよく読んでから保護クリームを顔、手などにぬり、ゴム手袋やマスクを使う。

④からだの具合が悪い人妊婦、年少者、過労気味の人は散布しない。

⑤作業が終ったら使った器具を洗う。また全身を石けんで洗うこと。

## ご厚志に感謝

### 社会福祉協議会

◇木村仁兵衛さん（李岱）亡父信一郎さんの死亡による香典返しに代えて金一五、〇〇〇円也。

## 木村貫一氏

### 町選挙管理委員長

合川病院において療養中のところ、六月九日午後二時四十五分病院で死去されました。享年七十三歳。

氏は、鷹巣農林の一期生卒業で、長らく県職員として奉職し、その間数々の要職を歴任しました。

定年後は、新聞販売業を営み、昭和三十三年合川町選挙管理委員、昭和三十五年から委員長として選挙の管理執行、明るく正しい選挙の推進に尽力されました。

なお、葬儀は六月十二日自宅で営まれました。

## どぶろく密造酒はやめよう

合川町は大館税務署よりどぶろく密造防止の町に指定になっています。

常習的にのむと保健衛生上悪いことは統計でみてもあきらかになっています。

お互にいましめあい「どぶろく」はのむまい、つくるまいを合言葉に、合川町より「どぶろく」を追放しましょう。

## 慶弔だより

自五月一日　至五月三十一日

**出生**

佐藤尚子　川井竹史二女
長岐雅子　木戸石忠助孫
畠山大樹　木戸石友治孫
伊勢功美　栄佐市孫
岸田善公　鎌沢善明長男

**死亡**

佐藤博也　川井要吉孫
加賀谷タキ　西根田トキ母
成田与助　大内沢本人
工藤クニ　上杉徳三郎母
後藤リツ　下杉伊七母
金田弥太郎　摩当本人
金森辰三　西根田本人
関朱美　上杉弥吉孫
長浜明美　上杉松三郎孫
鈴木広子　鎌沢利八孫
阿部美智子　桃栄重作孫
畠山禎久　木戸石助蔵孫
平川貴之　李岱運吉曾孫
鈴木晴彦　鎌沢礼吉孫
吉田広司　美栄四一孫
伊藤幸子　雪田福司孫

## 今月の農作業

### 稲の水管理と除草

◇水管理

田植後活着までは深水にして苗を保護します。活着して分けつ期に入ったら深水にする必要はありませんが、落水状態にしますと地温がさがりますので、気温の高い日中でも浅水にして地温を高めるようにします

とくに気温が二〇度C以下の日とか夜間は地面を露出させないことが必要です

冷水かんがい地帯、山間山寄地帯では、温水田を設けたり、ポリチューブやオーイーデー使用などで水温を高める工夫をして下さい

◇除草

除草は、除草剤の使用や機械除草によって能率的に効果的にすすめたいものです。

田植前後にピーシーピー・ニップなど使用した水田でも、そろそろ草が生えてくるので草が大きくならないうちに除草機をかけます

また、中期除草剤としてパムコン、あるいはマノックは一回中耕機をかけてからの方が効果的でしょう。

これらの除草剤にはホルモン型除草剤が含まれていますから日中の気温の高いときは使用するようにします。

### 加工用トマトの管理

◇しきわら

定植後、うね間にしきわらをすると、果実の汚れが少なく、実ぐされ、虫害、雑草のよくせいにもなります。また尻腐病の発生も少ないようです。

しかし、あまり早くやると地温をさげ生育を悪くしますから注意をして下さい

◇病害虫防除

これからいよいよ病害虫の発生しやすい時期です。薬剤のさん布は収量に影響しますので手おちのないようにして下さい。

◇疹病

トマトにとっては最も恐しい病気で、入梅期の低温多湿の時多く発生します。

使用薬剤は、ダイセン、ボルドー液、水銀ボルドー液など液剤が効果的です。

◇テントー虫

ヒ酸石灰をさん布します